

オルガノン要約 § 106～115

§ 106 ホメオパスはレメディの作用（健康な人に生じさせる病的症状や状態の変化）に精通していなければならない。

§ 107 病気の人でプルービングしないこと。その人固有の症状とレメディの症状を混同してしまうから。

§ 108 健康な人でプルービングすることこそがレメディの能力と傾向を突き止めるのに、確実に本質的な手続きである。レメディの治癒力を知るには、健康状態を変化させる力について観察することでしか分からないから。

§ 109 健康な人に忍耐強くプルービングし続けたのはハーネマンが最初である。

（注）ダイナミックな病気を治癒できるのはホメオパシーだけである。

ホメオパシーとアロパシーを同列に考えてはならない。アロパシーは根拠がなく有害だから。

§ 110 薬物の作用は健康な人体に生み出す変化によってのみ探求できる。それ以外の方法（憶測、匂い、外観、化学的な分析）では不可能である。過去、色々な人が毒物の危険性について述べたことはあるが、実はそこには、その毒物が持つ「治癒力」を示唆していたのである。誰も気づかなかったが・・・。

§ 111 薬物は、それぞれが「確定的な症状」を生み出すことができ、それぞれ「特徴的(特有)」なものである。

§ 112 人が生命の危険に晒されるのは、薬物（毒物）の一次作用によるものではなく、生命エネルギーの逆作用（二次作用）によるものである。

ホメオパシーのプルービングでは一次作用しか見ることはできない。適量で投与するため二次作用については、健康な状態にするのに必要なだけの作用しかしないから確認できない。

§ 113 § 112 の例外は麻薬である。麻薬では一次作用では鈍感に、二次作用では鋭敏になるから。

§ 114 プルービングでは一次作用（健康状態を変化させ、病的状態を生み出す）しか知覚することはできない。

§ 115 一次作用の中には部分的に反対の作用が見られることがあるが、これは二次作用ではなく、交互作用と呼ぶ。